

令和6年度 千葉市教育研究会社会科部会

小学校 美浜・花見川ブロック 6月例会

社会科学学習指導案

千葉市教育研究会社会科研究主題

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学学習
～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～



社会科学学習指導案

1 小単元名 あたたかい土地の暮らし ー沖縄県ー

2 小単元について

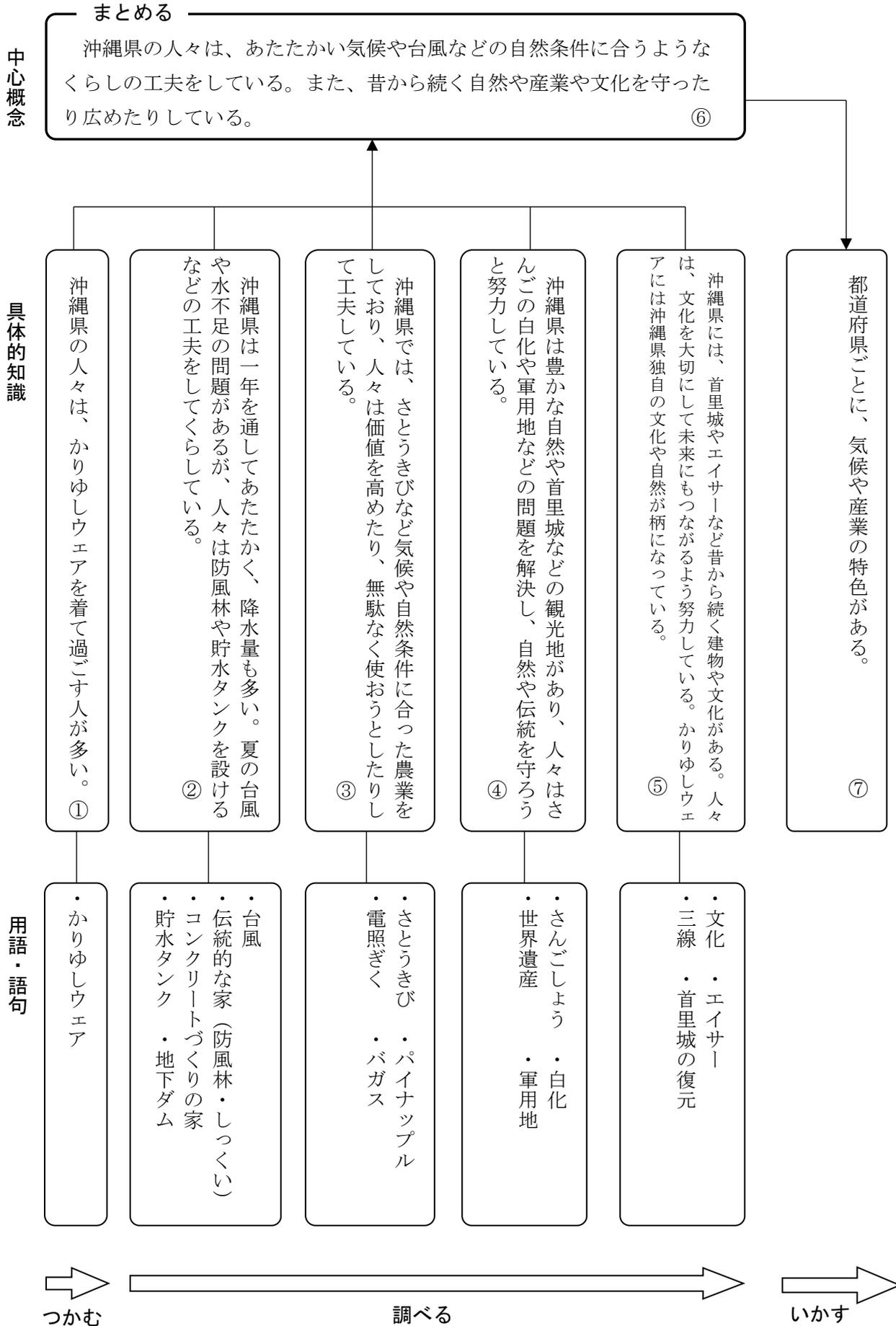
本小単元は、学習指導要領第5学年の内容(1)のア(知識及び技能)の(イ)「我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」、(ウ)「地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること」、イ(思考力、判断力、表現力)の「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」を受けて扱うものである。

前小単元の「国土の気候の特色」で、我が国には様々な気候があることを学んだことを受け、本小単元では千葉県と気候が異なる沖縄県を扱い、主に気候という観点を通して、沖縄県の気候の特色と、そこで暮らす人々が気候や自然条件に合わせて生活や産業を営んでいることを学ぶ。また、5年生では「低い土地の暮らし」(地形)、「あたたかい土地の暮らし」(気候)、「米づくりのさかんな地域」(農業)、「水産業のさかんな地域」(漁業)、「自動車をつくる工業」(工業)で我が国の地形や気候、産業の特色について学ぶ。

本学級の児童は、4月に行った都道府県のテストでは47都道府県の場所が正しく書けた児童が5名しかおらず、県外の知識が豊富とは言いがたい。本小単元で扱う沖縄県の理解も十分ではないと考えられる。また、普段の学習では、全体の前では積極的に発表する児童は少ないが、少人数で話し合うときは積極的に話したり、質問したりする様子が見られる。

これらのことから、次のような手立てをとりたい。一つ目は、丁寧な指導を心掛けることである。具体的には、教師と一緒に資料を読み取る時間や地図帳や白地図など地図に触れる時間を設ける。一つ一つの資料をしっかりと読み取ることで児童の理解が深まると考える。また、実物や映像資料を提示する機会を多く設けて、児童の実感しやすいものから考えたり理解したりできるようにしたい。そうすることで、得た知識に自信をもち積極的に発表することにつながるだろう。二つ目は、発表の仕方を工夫することである。各時間で調べたことを発表する際に、少人数で分かったことを伝え合ってから発表するようにしたい。そうすることで、自分の調べたことや考えたことに自信がもてるようになるだろう。三つ目は、複数の単元(前述した、地形・気候・農業・漁業・工業)の「िकास」の時間に一人一人が都道府県を選び、その地域の地形や気候の特色、産業の特色を調べて白地図にかいて、共有することである。そうすることで、児童の都道府県に対する理解が少しずつ深まるようにして、6年生や中学校での学習につなげていきたい。

4 知識の構造図



5 小単元の目標

- 我が国の国土の様子について、地図帳や各種資料などで調べて白地図やノートなどにまとめることで、あたたかい土地の気候や自然やそこに住む人々のくらしの工夫を理解することができる。 【知識及び技能】
- あたたかい土地の気候や自然条件とそこに住む人々のくらしや産業を関連付けることで、あたたかい土地に住む人々の工夫について考え、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- あたたかい土地の気候や自然条件にどんな特色があるか、人々は特色に合わせてどのような工夫をしているか、主体的に学習問題を追究し考えようとする。 【学びに向かう力、人間性等】
- 都道府県ごとに気候の特色があることを知ろうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

6 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① あたたかい土地の気候などについて、地図帳や教科書などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、あたたかい土地の自然などの様子や人々の生活や産業を理解している。	① あたたかい土地の気候などに着目して、問いを見出し、自然などの様子や人々の生活や産業について考え表現している。	① あたたかい土地のくらしや産業について、学習計画を立てたり学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを図や文にまとめ、あたたかい土地の人々が気候や自然条件に適応した生活や産業を営んでいることを理解している。	② 学習したことを基に、あたたかい土地の気候や自然条件の特色、人々の生活や産業を関連付けて考えたり、表現したりしている。	② 都道府県ごとに気候の特色があることを、主体的に調べたり、白地図にまとめたりしようとしている。

7 小単元の指導計画（7時間扱い）

過程	時間	主な学習活動と内容	評価規準と評価方法
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 千葉県と沖縄県の人々の服装に違いがあり、沖縄県ではかりゆしウェアを着ている人が多いことを踏まえて、なぜ違うのか予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候が違って暑いからだと思う。 ・ 観光客に楽しんでもらうためだ。 ○ 予想をもとに、学習問題や学習計画をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習問題 沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう。 ～かりゆしウェアにこめられた思いを考えよう～</p> </div>	[主体的①] ・ 服装の理由を予想したり、学習問題や計画を考えたりしようとしている。(発言・ノート)

調 べ る	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨温図や台風の動画から、沖縄県の気候やくらしの様子の違いをつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県は千葉県と気候がちがうようだ。 ・ どんなくらしをしているのだろう。 ○ 気候や自然条件に合わせてくらしの工夫をしていることを、資料を調べて発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県にはあたたかい気候で、台風や水不足の問題がある。 ・ 昔も今も、暑さや台風、水不足対策をしている。また、気候に合わせて服装をしている。 	<p>[知技①]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県の気温や降水量といった気候の特色、台風や水不足といった自然条件と、それらに合わせた人々のくらしについて資料から読み取り、理解している。 (発表・ノート)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒糖やバガス製品を通して、どのようにさとうきびが栽培されている予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ さとうきびの生産がさかんだ。 ・ パイナップルなど南国の食物の生産がさかん。 ○ さとうきびや他の農作物を育て方やさかんな様子を調べ、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ あたたかい気候に合わせて、さとうきびやパイナップルを育てている。 ・ さとうきびの搾りかすを利用したり、きくの出荷の時期をずらしたりして、工夫している。 	<p>[思判表①]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あたたかい気候や自然条件に合わせて、工夫して農業をしていることを考え表現している。 (発表・ノート)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度の沖縄県の旅行者数が800万人を越えることから、沖縄県にどんな魅力があるか予想をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然があって海がきれい。 ○ 予想をもとに調べ、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候や豊かな自然を生かした観光業がさかん。 ・ 赤土やさんごの白化、軍用地の問題もある。 ○ さんごの植え付け体験の動画を見て、自然を守る取組をしていることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を守る取組があることで沖縄県の魅力も保たれている。 	<p>[知技①]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県では、あたたかい気候や自然を生かした観光業がさかんであることや、自然を守る取組をしている人々がいることを理解している。 (発言・ノート)
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ かりゆしウェアとアロハシャツを比較することを通して、かりゆしウェアの定義を予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 柄や色合いに意味があるのではないか。 ・ 沖縄県にあるものが書かれてないといけない。 ○ 内閣府から出されている二つの違いの説明をもとに、沖縄県の文化を調べ、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物や踊りなど独自の文化がある。 ○ 沖縄県観光 web サイトを見て、復興を願う沖縄県の人々の気持ちを想像する。 	<p>[知技①]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県では、独自の文化が昔から続いていることと、文化を大切にしている人々がいることを理解している。 (発表・ノート)

<p style="text-align: center;">ま と め る</p>	<p style="text-align: center;">6 (本 時)</p>	<p>○ 沖縄県 HP のかりゆしウェアにこめた願いを 読んで、かりゆしウェアのデザインを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暮らしやすい家に特ちょうがあったから、昔な がらの家と石垣を入れたい。 ・ 昔から育てていたさとうきびがいいな。 ・ 沖縄県の人々はさんごを大切に守っているから、 さんごのデザインを入れたい。 ・ 友達の意見を聞いて、三線も入れたいと思っ た。 	<p>[思判表②]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かりゆしウェアのデザ インを考えることを通 して、これまでの学習 を振り返ったり、学習 問題のまとめを考えたり している。 <p style="text-align: right;">(発表・プリント)</p>
		<p style="text-align: center;">まとめ</p> <p style="text-align: center;">沖縄県の人々は、あたたかい気候や台風などの自然条件に合うよう なくらしの工夫をしている。また、昔から続く自然や産業や文化を守 ったり広めたりしている。</p>	
<p style="text-align: center;">い か す</p>	<p style="text-align: center;">7</p>	<p>○ 前時までの学習をもとに、都道府県ごとの気候の特 色とそれを生かした産業があることを想像させ、都道 府県を選んで調べて、白地図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳を見ると、地形や気候に特色がありそう な都道府県がたくさんありそうだ。 ・ 新潟県の気候は冬に雪が多いです。新潟・上越市・ 魚沼市などで米を、南魚沼市でしめじやまいたけを 育てています。 	<p>[主体的②]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ都道府県の気候 の特色について、主体 的に調べたり、白地図 にまとめたりしようと している。 <p style="text-align: right;">(態度・発言・白地図)</p>

8 市教研社会科研究主題解明のための方策

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学習
 ～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～

<本年度主題解明のための方策>

- 研究内容 1 問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫
 研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫
 研究内容 3 指導と評価の一体化

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

- 研究内容 1 問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫

○ 取り上げる教材の工夫について

本小単元では、次の理由から、かりゆしウェアを単元の中心に据えて展開したい。また、農業について学習する際に、さとうきびとバガスを導入資料として扱いたい。

- ・ かりゆしウェアについて（詳細は「10資料⑥・⑨」参照）

かりゆしウェアは、気候に合った服装であること、沖縄県の人々の広める努力や定義化などによって今や沖縄県の観光や文化の一端を担っていると言える。また、最近はさとうきびの搾りかす（バガス）を活用した製品も出ている。本小単元では、気候や自然条件とそれに合った人々のくらしを関連付けて考える単元であるので、教材として適していると考えられる。

- ・ さとうきび及びバガスについて（詳細は「11 参考資料①」参照）
 実態から、さとうきび自体は知っていても、どのように活用されているか知らない児童が多い。砂糖やバガスを材料として作られた商品の実物を用意することで、理解しやすくなる
 と考える。
 さとうきびは台風や干ばつにも強く、沖縄県を代表する農作物であり、搾りかすの活用化
 が最近進んでいる。昔から砂糖の原料として栽培していたので、児童は農業面で理解が進む
 上に、バガスの活用化を知ること、人々の工夫を考えることができるだろう。
- 単元構成の工夫について
 - ・ 具体物による導入
 実態調査から、千葉県から離れた沖縄県の特徴を扱う本小単元は、児童にとって想像や理
 解がしにくいと考えられる。そこで、本来は「つかむ」時間で気候とくらしを関係させて学
 習問題をつくるどころだが、気候や自然条件の特徴と人々のくらしをよりつかみやすくす
 るために、かりゆしウェアの実物を用いる。具体物を基に、沖縄県と千葉県の服装の違いから
 考えられるようにすることで、千葉県から離れた沖縄県の人々のくらしの様子が想像しやす
 くなると考える。
 - ・ 「いかす」の時間に白地図にまとめる活動を行う。
 実態調査から、児童は都道府県についての知識が多くないことが分かる。また、覚えるこ
 とに苦手意識をもっている児童もいる。そこで、「低い土地のくらし」（地形）、「あたたかい
 土地のくらし」（気候）、「米づくりのさかんな地域」（農業）、「水産業のさかんな地域」（漁
 業）、「自動車をつくる工業」（工業）の各小単元の後に、調べたい都道府県を決めて白地図に
 まとめる活動を行いたい。そうすることで、都道府県の理解が深まるとともに、我が国の地
 形や気候、産業の特徴をつかむことができるだろう。

研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫

- 教師と資料を読み取る時間を設ける。
 実態調査から、資料の読み取りに苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。そこで、
 調べる時間では、毎時間教師と資料の読み取りをする時間を設ける。読み取り方や視点が明確
 になることで、自分の力で資料を読み取る際に自信をもって取り組むことができるだろう。
- 白地図や地図帳を扱う時間を設ける
 本小単元は、千葉県から離れた沖縄県を扱う。実態から見ても、児童は具体的な地理感覚を
 つかめず身近に感じづらいことが予想される。そこで、地図帳で調べたり、調べたことを白地
 図にかく時間を設けたりすることで、離れた沖縄県であっても、沖縄県内の各農作物や文化遺
 産などがどこにあるかといった空間的な広がりを理解しやすくなると考える。
- 協同的な学びの場を設ける
 実態調査から、自分の意見に自信がもてず発表に苦手意識をもっている児童がいることが分
 かる。そこで、各時間で調べたことを全体で発表・共有する前に、少人数で分かったことを伝
 え合う時間を設けたい。少人数で話し合ったり確認したりすることで、自分の調べたことや考
 えたことに自信がもてるようになり、全体での共有でも意見を伝えやすくなるだろう。

研究内容 3 指導と評価の一体化

○ 「まとめる」時間にかりゆしウェアのデザインを考えることについて

東京書籍の5年上の教師用指導書 P25 には、「まとめる」時間について、「わかったことを羅列的にまとめるのではなく、比べたり、分類したり、統合したり、関連付けたりすることで、考えたことをまとめさせたい」とある。児童が書いたノートや作文を見ると、文章による表現が苦手な児童がいる。そこで、本小単元の「まとめる」時間に、「学生かりゆしデザインコンテスト」で本小単元で学んだことをもとに、かりゆしウェアの柄（前面と後面）と、選んだ理由を考えて書く活動を取り入れたい。本小単元では、沖縄県の気候の特色と、気候に合わせてくらしの工夫、農業、観光、文化の主に5つについて学ぶ。それらを文でまとめることが苦手な児童でも、何をかくか選択をすることでこれまでの学習を振り返ったり比較したりすることができるだろう。

9 - 1 1時の指導（1／7）

（1） 本時の目標

- 写真の資料から、沖縄県の人々とわたしたちのくらしの違いに気付き、その違いがなぜか予想したり、予想をもとに学習計画を考えようとしていたりしている。（主体的に学習に取り組む態度）

（2） 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 あたたかい土地の気候や自然条件に着目し、沖縄県に住む人々のくらしを学ぶ小单元であること知る。また、学習問題をつくり、学習計画を立てることを知る。	○ 「低い土地のくらし」の学習を想起させ、本小单元は気候に着目するよう指導する。	
沖縄県に住む人々の写真を見て、学習問題をつくり、学習計画を立てよう。			
5	2 沖縄県はどのような気候か予想し、地図帳で距離を比較したり、那覇と東京の雨温図を見て比較したりする。 ・ 冬も10度以上で年間通して暖かい。 ・ 特に6と9月は降水量が多い。	○ 年間を通した気温の高さや夏の降水量の多さなど、2つのグラフの違い比較しながら見るようを指導する。	
15	3 沖縄県の人々の写真を見て、わたしたちとの服装の違いやかりゆしウェア、働くときに着ている人が多いことを知る。かりゆしウェアを着ている理由を予想してノートに書き、予想を友達と伝え合ってから発表する。 ・ 気温が高く、湿気も多いからだと思う。 ・ 柄や形に特別な意味がこめられているからだと思う。 ・ 材料が特别で着心地がいいのだろう。 ・ 伝統的な衣装だからいいのだと思う。	○ 保護者の働く姿や休日の姿を想起してから、写真を見るように配慮する。 ○ 気候以外にも目が向くように、室内で着ている点や、半袖ではなくかりゆしウェア着ている点など、様々な視点から考えるよう声をかける。 ◆ かりゆしウェアを着ている理由を考えようとしている。 (発言/主体的)	○写真 (資料①と②)
15	4 発表をもとに、学習問題をつくり学習計画を立てる。		
沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう。 ～かりゆしウェアにこめられた思いを考えよう～			
	・ 気温や降水量やくらしを調べよう。 ・ どんな産業があるのか調べよう。 ・ 観光にどう力を入れているか調べよう。 ・ どんな文化があるか調べよう。	○ 何を調べれば予想が分かるかを考えるよう声をかける。 ◆ どのように学習を進めればよいか考えて計画を立てようとしている。(発言/主体的)	
5	5 次時の学習内容を知り、見通しをもつ。		

9 - 2 2時の指導（2／7）

（1） 本時の目標

- 絵や写真の資料から、沖縄県の気候や自然条件の特色と、それらに合わせた人々のくらしの工夫を読み取り、理解することができる。 （知識・技能）

（2） 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
10	1 雨温図でどんな特色があったかを想起する。台風の影響について知り、あたたかい気候や台風に合わせて、人々はどんなくらしの工夫をしているか予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 涼しい服装をしている。 ・ 強い風に対してかべを固くしている。 	○雨温図の見方を再度確認する。また、動画を通して台風は雨や風の被害が大きいことを確認する。	○動画 (資料③)
あたたかい気候に合わせて、人々はどのようなくらしの工夫をしているのだろう。			
5	2 かりゆしウェアの着用奨励期間を知り、雨温図との比較を通して、気候に合った服装であることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 20度を越える時期と着用奨励期間が同じだ。 	○ かりゆしウェア着用奨励期間が4月1日から11月30日であることも伝え、気温について考えられるようにする。	
15	3 沖縄県の人々のくらしについて調べて、ノートに書き、隣の人同士で伝え合った後、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防風林があって風を防いでいるね。 ・ 昔は石垣、今はコンクリートづくりで台風対策をしている。 ・ 地下ダムや貯水タンクで水不足の対策をしている。 	○気候の対策だけでなく、台風や水不足対策についても調べるよう指導する。 ◆気候や自然条件に合わせて工夫してくらしていることを資料から読み取り、理解している。 （発表・ノート/知技）	
10	4 発表をもとに本時の学習内容をまとめる。		
沖縄県は一年を通してあたたかく、降水量も多い。夏の台風や水不足の問題があるが、人々は防風林や貯水タンクを設けるなどの工夫をしてくらしている。			
5	5 次時の学習内容を知り、見通しをもつ。		

9 - 3 3時の指導（3／7） 白地図＋ノート

(1) 本時の目標

- あたたかい気候や自然条件に合わせて、環境への配慮や売り上げ向上などをしたりして、工夫して農業をしていることを考え表現することができる。（思考・判断・表現等）

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	<p>1 実物資料が何でできているか考えた後、沖縄県ではさとうきび以外にもどんな農業があるか、どんな工夫をしているかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒糖も容器も元は同じなんてすごい。 ・ 色々な活用ができる植物を育てている。 	○ 前時で学んだ気温や自然条件の特色、沖縄県の地形を想起するよう声をかける。	実物資料 (黒糖・バガ製品)
<p>沖縄県では、あたたかい気候を生かしてどのような農業をしているのだろう。</p>			
10	<p>2 地図帳でさとうきび、電照ぎく、マンゴーなどの産地を確認し、白地図にかく。電照ぎくについて知り、他の産地と出荷時期をずらしている理由を教師と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただ作るだけでなく工夫しているな。 	○ 出荷時期をずらすことで価値を高めていることに気付くようにする。	○白地図 (資料⑩)
15	<p>3 沖縄県ではどのような農業をしているのか教科書や地図帳で調べて、ノートに書き、隣の人同士で伝え合った後、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さとうきびやパイナップルづくりなど、あたたかい気候に合った農業をしている。 ・ 防風林をつくって台風対策をしたり、スプリンクラーをつくって潮害対策をしたりしている。 	<p>○ 気候や自然条件と農業の関係を考えるよう声をかける。</p> <p>○ 高価な作物を育てている意図が分かりづらい場合は、全体共有の場で教師から助言をする。</p> <p>◆ 特色ある気候や自然条件と農業を関連付けて、人々が工夫をして農業をしていることを考え表現している。 (発言・ノート/思判表)</p>	
10	<p>3 バガスをかりゆしウェアに再利用している取組をしている動画を見て、よりよく活用しようと思う沖縄県の人々の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さとうきびを大切にしているだけでなく、沖縄の文化も守ろうとしているな。 	○ 動画の難しい用語は適宜教師が説明をして、理解しやすいようにする。	○動画 (資料④)
<p>4 本時の学習を振り返ってまとめる。</p> <p>沖縄県では、さとうきびなど気候や自然条件に合った農業をしており、人々は価値を高めたり、むだなく使おうとしたりして工夫している。</p>			
5	5 次時の学習内容を知り、見通しをもつ。		

9 - 4 4時の指導（4／7） 白地図＋ノート

(1) 本時の目標

- 沖縄県では、あたたかい気候や自然を生かした観光業がさかんであることや、自然を守る取組をしていることを理解することができる。 (知識・技能)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	<p>1 沖縄県の旅行者が年間800万人を超えることを知り、どんな魅力があるのかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りが海なので、海水浴客や南国の珍しい魚を見に来るのだと思う。 ・ 海をきれいにする活動をしている。 	<p>○ 魅力を考えるだけでなく、昔から観光客が多いことにも着目して魅力をどう守っているかについても考えるよう声をかける。</p>	○グラフ (資料⑤)
<p>沖縄県にはどのようなみ力があり、人々はそれを守るためにどのような努力をしているのだろう</p>			
10	<p>2 地図帳で史跡・名勝(・)や特色のある建物(+)を確認し、白地図にかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光する場所が多いな。 	<p>○ 見つけづらい場合は、友達に教えてもらってもよいと伝える。</p>	○白地図 (資料⑩)
15	<p>3 沖縄県にはどのようなみ力や問題があるか、人々がどのような対策をしているかノートに書き、隣の人同士で伝え合った後、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然がある。 ・ 冬でもあたたかいので、プロスポーツ選手がキャンプに利用している。 ・ さんごの白化や軍用地の問題があるが、解決しようと努力している。 	<p>○ さんごの白化や軍用地などの問題、人々が行っている対策にも着目するよう声をかける。</p> <p>◆ あたたかい気候や自然を生かした観光業がさかんであることを理解している。 (発言・ノート/知技)</p>	
10	<p>4 さんごの保全活動に取り組んでいる動画を見て、沖縄県の人々の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大人も子どももさんごを守っている。 ・ 沖縄の自然を守って、未来にも残したいのだろう。 	<p>○ 難しい用語は教師が説明をし、理解できるようにする。</p> <p>◆ 人々は自然を守る取組をしていることを理解している。 (発言・ノート/思判表)</p>	
<p>5 本時の学習を振り返ってまとめる。</p> <p>沖縄県は豊かな自然や首里城などの観光地があり、さんごの白化や軍用地などの問題を解決し、自然や伝統を守ろうと努力している。</p>			
5	<p>6 次時の学習内容を知り、見通しをもつ。</p>		

9 - 5 5時の指導（5／7） 白地図＋ノート

(1) 本時の目標

- 沖縄県では、独自の文化が昔から続いていることと、文化を大切にする人々がいることを理解している。 (思考・判断・表現等)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 かりゆしウェアとアロハシャツの違いを予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どちらも気候に合わせて涼しそうだ。 ・ 2つの色合いが違う感じがする。 ・ かりゆしウェアは沖縄県にちなんだ柄が入っていると思う。 	○ 意見が出ない場合は、それぞれ数点見せて、共通点や相違点ができるようにする。	
沖縄県にはどのような文化があるのだろう。			
10	2 内閣府から出されている表から2つの違いを知る。地図帳で世界文化遺産(緑口の)を確認し、白地図にかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界文化遺産が8つもある。 	○ 見つけづらい場合は、友達に教えてもらってもよいと伝える。	○表 (資料⑥) ○白地図 (資料⑩)
15	3 沖縄県の文化について調べてノートに書き、隣の人同士で伝え合った後、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 独特の踊りや音楽、古い建物がある。 ・ 沖縄県には昔から独自の文化がある。 	○ 知っている祭りや建物との違いを考えるように声をかける。	
9	4 沖縄観光情報 web サイトを見て、民間の取組や復興を願う沖縄県の人々の気持ちを考える。(変更の可能性あり) <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然や文化を大切にしようという気持ちが強いのだな。 ・ 様々な形で文化を守っているのだな。 	○ 出てくる難しい用語は適宜教師が説明をして、理解しやすいようにする。 ○ 自然や文化を守る人がいるから今あることにも気付けるように声をかける。 ◆ 昔からの文化があることや、守っている人々がいることを理解している。 (発言・ノート/思判表)	○web 州 (資料⑦)
5	5 本時の学習を振り返ってまとめる。 沖縄県には、首里城やエイサーなど昔から続く建物や文化がある。人々は、文化を大切にして未来にもつながるよう努力している。かりゆしウェアには沖縄県独自の文化や自然が柄になっている。		
1	6 次時の学習内容を知り、見通しをもつ。		

9 - 6 本時（6時）の指導（6／7）

（1） 本時の目標

- かりゆしウェアのイラストを考える活動を通して、これまでの学習を振り返ったり、学習問題のまとめを考えたりして、沖縄県の気候の特色やくらしの工夫、産業などについて表現することができる。 （思考・判断・表現等）

（2） 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
3	1 これまでの学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県は一年を通してあたたかい気候で、夏は台風や水不足などの問題があるが、人々は工夫してくらしている。 ・ あたたかい気候に合う農業をしている。 ・ 豊かな自然を生かした観光業がさかんで、自然を守る取組を続けている。 ・ 人々は独特な文化を大切にしている。 	○ 意見が出ない場合は、掲示物やノートを見るように声をかけ、想起できるようにする。	○ 掲示物
5	2 学生かりゆしデザインコンテストについて知り、かりゆしウェアのデザインについて考えることを知る。	○ かりゆしウェアグランプリの動画を提示して、書いた人の思いについても触れる。	○ 動画 (資料⑧)
<p>沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう。 ～かりゆしウェアにこめられた思いを考えよう～</p>			
2 2	3 沖縄県 HP のかりゆしウェアについて書かれた内容を確認した後、デザインを考えて全体で共有する。 (1) プリントに理由、デザインの順でかく。 (2) 10分程度を目安に、適宜友達のプリントを見にいき、再度かく。 (3) かいたものを発表し、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家の石垣にくらしの工夫があったから、昔ながらの家と石垣を入れたい。 ・ 昔から育てていたさとうきびがいいな。 ・ 沖縄県の人々はさんごを大切に守っているから、さんごの柄にしたい。 ・ 首里城復興の思いが強いから首里城と人々をかきたい。 ・ 友達の意見を聞いて、三線も入れたいと思った。 	○ 「沖縄らしい」デザインとはどういうことか、気候・くらしの工夫・農業・観光・文化の観点から考えるよう声をかけ、さらに例示をする。 ○ 表し方は絵でも文でもよいこと、理由が大切であることを伝える。 ○ 友達のプリントを見る際は、理由に着目するよう伝える。また、見たことを参考にしたいと伝える。 ○ 気候・くらしの工夫・農業・観光・文化の5つが発表で出るように指名する。	○ HP 資料 (資料⑨) ○ プリント (資料⑩)

<p>10</p>	<p>4 デザインの発表をもとに、小単元のまとめを書いて発表する。</p> <div data-bbox="311 168 853 414" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><デザインがかけない児童への手立ての例> ①かく対象自体を見てかきたい場合は、教科書や資料集、ギガタブを使って見ながらかいてもよいと伝える。 ②絵自体をかけないと思っている場合は、理由が大事だと再度伝え、何を対象にするか、どうして選んだかを文で考えるよう伝える。</p> </div> <div data-bbox="311 448 853 604" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><理由が書けない児童への手立ての例> ○対象が決まっている場合は、なぜそうしたのか理由を聞き、どんな文章にすればよいかを助言する。</p> </div>	<p><対象が選べない児童への手立ての例> ①複数から絞れない場合は、複数でも可と伝え、理由もそれぞれかくように声をかける。 ②一つも思いつかない場合は、ノートや掲示物を見て、くらしや産業の工夫などを想起できるように声をかける。沖縄県のキッズページも参照するように声をかける。</p> <p>◆ これまでの学習を振り返ることを通して、かりゆしウェアのデザインを考え表現している。(発言・プリント/思判表)</p> <p>○ 発表から、くらしの工夫・農業・観光・文化は、沖縄県の人々が気候を生かしたものであることを確かめる。</p>	
<p>5</p>	<p>5 日本には地域によって気候に特色があることから、次時から各都道府県について調べることを知る。</p> <div data-bbox="263 840 1204 1041" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 沖縄県の人々は、あたたかい気候や台風などの自然条件に合うようなくらしの工夫をしている。また、昔から続く自然や産業や文化を守ったり広めたりしている。</p> </div>	<p>◆ かりゆしウェアのデザインを通して、学習問題のまとめを考え表現している。(発言/思判表)</p> <p>○ 「低い土地のくらし」で決めた都道府県について調べことを伝える。</p>	

本時の板書計画(案)

沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう。
 ～かりゆしウェアにこめられた思いを考えよう～

これまでの学習問題とまとめを書いた模造紙



児童がかいたプリント

沖縄県の人々は、あたたかい気候や台風などの自然条件に合うようなくらしの工夫をしている。また、昔から続く自然や産業や文化を守ったり広めたりしている。

9 - 7 本時の指導（7 / 7）

（1） 本時の目標

- 都道府県を選び、都道府県ごとの気候の特色と、それに合った産業について調べ、白地図にまとめて発表しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

（2） 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 前時のまとめやこれまれの学習を振り返り、都道府県ごとに気候の特色について確かめ、どんな産業がありそうか予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本は山地が多く、特に真ん中を背骨のように高い山が続いている。 ・ 新潟県は、冬に雪がたくさん降る。 ・ 山が多い県は、きのこが多くとれそう。 	○ ノートや教科書、地図帳を見て、気候にどんな特色があったか想起してから、考えるように指導する。	
各都道府県は、気候を生かしてどんな産業や文化があるのだろう。			
10	2 自分が調べる都道府県について、次の順で調べていくことを知る。 ①気候を白地図にかき、気候の特色を書く。 ②地図帳を見て、いくつかの産業に絞って白地図にかく。 ③発表の準備、練習をする。	○ 見本を見せて、参考にするように声をかける。 ◆ 都道府県を選び、都道府県ごとの気候の特色と、それを生かした産業や文化について調べようとしている。 (白地図/主体的)	○白地図(資料⑫)
20	3 本時の学習内容を知り、調べたことを発表する。	○ 都道府県ごとに、気候にどんな特色があるかをノートに書くよう指導する。	
10	4 発表内容を振り返り、都道府県ごとに気候に特色があり、特色に合わせた産業や文化に関係があることを想像する。	○ これまでの学習で、人々の工夫や努力で、気候の特色に合った産業ができたことを想起させ、関係付けて考えられるように指導する。 ◆ 気候の特色と、産業の特色について考えようとしている。(発言/主体的)	
都道府県ごとに、気候や産業の特色がある。			

10 資料

① 沖縄県で働く人の様子



内閣府 HP より (<https://www8.cao.go.jp/okinawa/kariyushi/kikonasi.html>)

② 沖縄県の結婚式の様子

写真は授業でのみ表示します。

③ 台風の被害の動画

NHK for school より (https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005401106_00000)

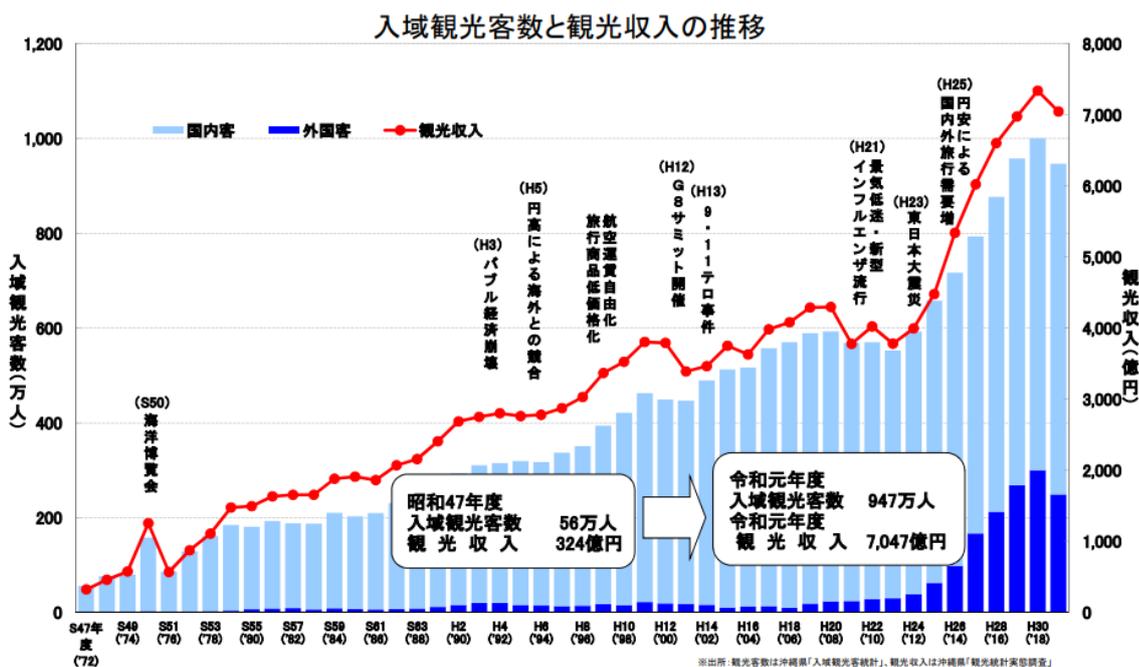
④ バガスの再利用についての動画

琉球朝日放送 HP より (<https://www.qab.co.jp/news/20230605176362.html>)

※動画の一部を切ってつないでいます。

⑤ 入域観光客の推移

沖縄県 HP より (<https://www.pref.okinawa.jp/kensei/tokei/1016369/1016469.html>)



⑥ かりゆしウェアとアロハシャツの違い

内閣府 HP (<https://www8.cao.go.jp/okinawa/kariyushi/tigai.html>) より

	かりゆしウェア	アロハシャツ
語源	「かりゆし(嘉例吉)」とは、沖縄の方言で「めでたい」という意味を表す。	「Aloha(アロハ)」とは、ハワイ語で「好意・愛情・慈悲・優しい気持ち・思いやり・挨拶」という意味を表す。
起源	最初は1970年に沖縄県観光連盟が「おきなわシャツ」として発売し、その後、2000年デザインの限定を緩和することで、名称を「かりゆしウェア」に統一し、同年の沖縄サミットを契機として広く着られるようになりました。	アロハシャツは、ハワイに渡った日本の移民が着物を仕立て直してシャツにしたものが起源とされます。1930年代には日系人や中国系の仕立屋によって盛んに作られ、1935年には最初の「アロハシャツ」名の広告が日系人経営のムサシヤから出されました。
絵柄	かりゆしは、「八重山ミンサー」・「琉球餅」・「紅型」など、沖縄伝統工芸の織物を模した柄や、「ゴーヤー」・「シークワサー」・「シーサー」など沖縄独特の風物をモチーフとした柄があります。一般には、アロハよりおとなしい絵柄という印象をもたれています。	アロハは、日本から輸入された生地が使われたため、和柄が多く見られました。やがて洋柄化が進み、1940年ごろまでには、アロハと言えば、パインアップルやヤシなどのトロピカルなモチーフのものを華やかでカラフルな色彩で染めたものを指すようになりました。

⑦ 沖縄観光情報 web サイト内の民間の取組のページ

(https://www.okinawastory.jp/feature/shurijo_R5/minkan/) より

⑧ かりゆしウェアグランプリの動画

(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240522/k10014456751000.html>) より

⑨ かりゆしウェアについて (次のものは一部抜粋)

ページ番号1010117 更新日 2024年1月11日



かりゆしウェア

(写真協力: 沖縄県衣類縫製品工業組合)

「かりゆしウェア」は、沖縄の夏を快適に過ごすとともに、本県を訪れる観光客を温かく迎え入れ沖縄のイメージアップを図るために考えられたウェアです。沖縄の伝統染織物、文化や自然等をモチーフにしたデザインが特徴で、着用の際はウェアの裾を外に出して着用するのが一般的です。

県内においては夏の軽装として定着しており、最近では観光客の方々にも人気があります。

なお、「かりゆしウェア」は、沖縄県衣類縫製品工業組合により商標登録(商標登録「かりゆし」、登録第4478571号)されています。

- ・「かりゆし」の意味
沖縄の方言で、「めでたいこと」や「縁起の良いこと」を意味します。(沖縄タイムス社沖縄百科事典参照)
- ・定義
次の2つの条件があります。
 1. 沖縄県産であること。
 2. 沖縄らしいデザインであること。
- ・タグ(下げ札)について
「かりゆしウェア」に付いているタグは、沖縄県衣類縫製品工業組合が県内の「かりゆしウェア」製造に必要な設備と技術を有する者に対し、「かりゆしウェア」を証明するものとして発行しています。

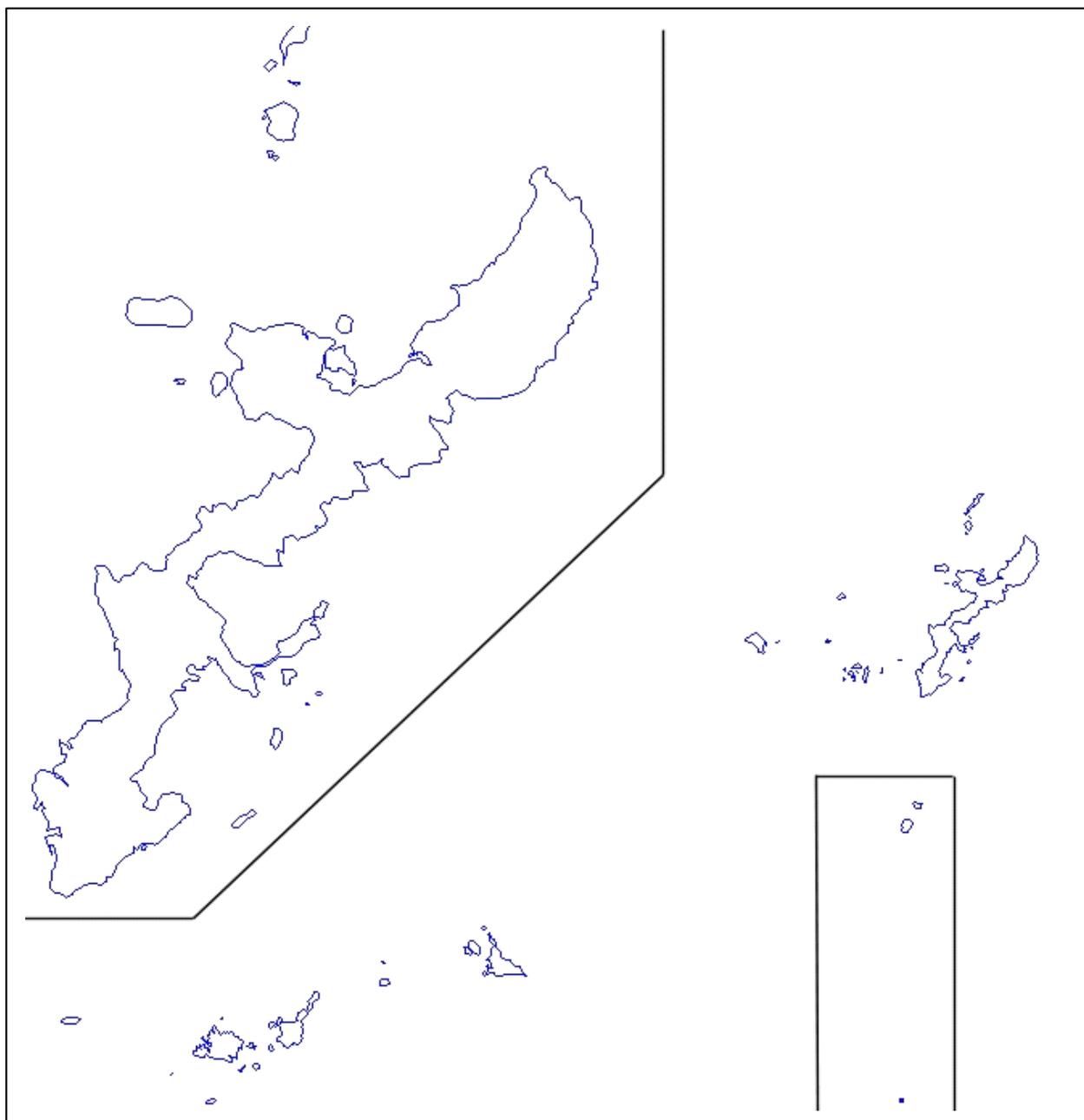


下げ札(タグ)

沖縄県 HP (<https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/keizai/1009879/1009880/1010114/1010117.html>) より

⑩ 3～5時間目の「調べる」の時間で使う白地図の見本（ノート左面に貼る）

学習問題



記号

○	☆
△	
□	

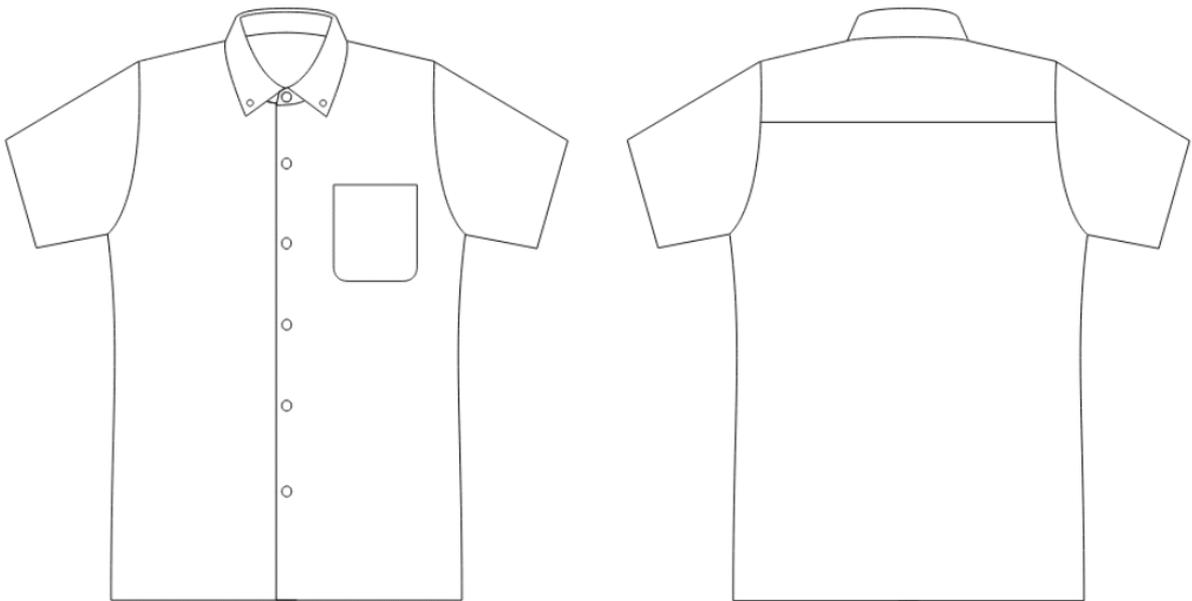
⑪ 「まとめる」の時間で使うプリント（A4で作成）

沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう。～かりゆしウェアにこめられた思いを考えよう～	名前
---------------------------------------------------------------	----

① どんなデザインをかきたいか考えよう。（沖縄らしいもの、沖縄らしい色は・・・）

かくもの・色	理由

② 考えたことをもとに絵にかこう。（むずかしければ言葉や図で表そう）



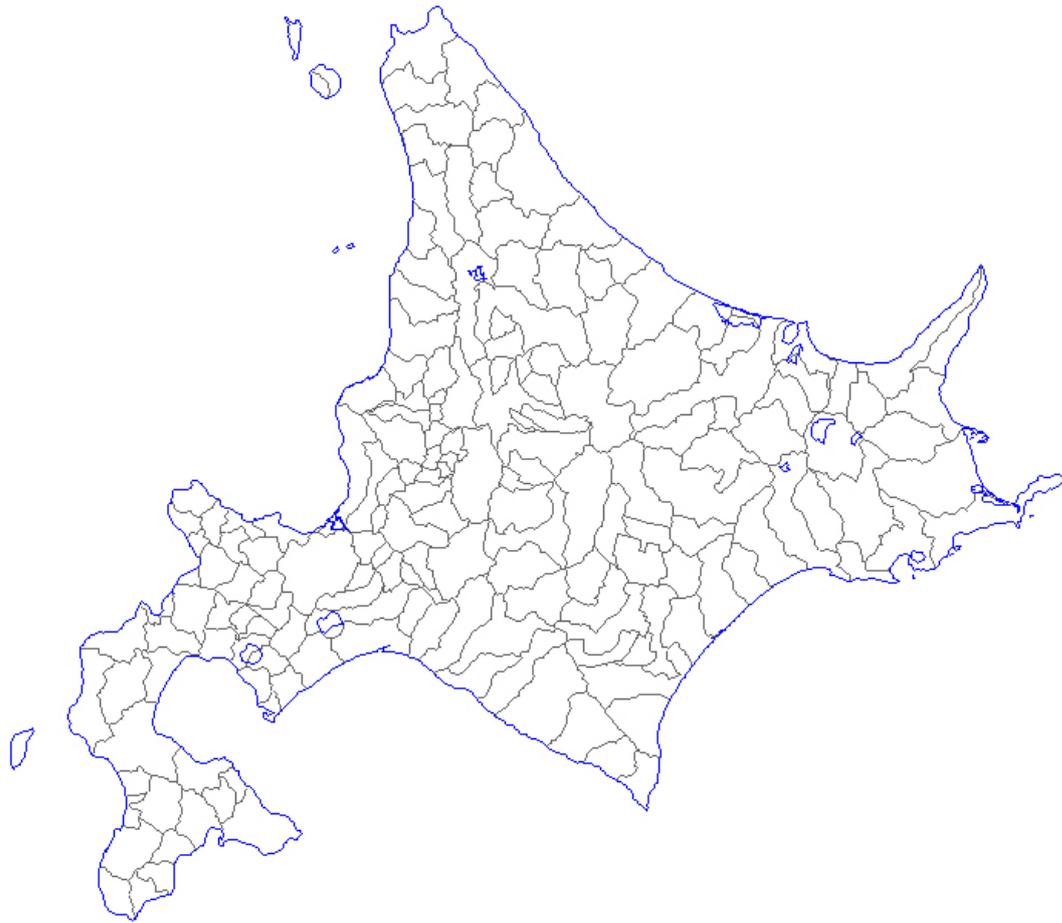
⑫ 「いかす」の時間で使うプリント（北海道の例）

都道府県名

北海道

5年組

特色



○

☆

△

□

1.1 参考資料と所見

① さとうきび及びバガスについて

- ・ さとうきびの栽培状況、産出額について

さとうきびは栽培面積も収穫量の6割前後を沖縄県が占めており、近年は生産額が肉用牛より下回っているとは言え、昔から沖縄県の基幹産業と言える。

表 令和4年産さとうきびの栽培面積、収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収穫面積	10a当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)		
					栽培面積		収穫面積		10a当たり収量	収穫量		10a当たり平均収量対	10a当たり平均収量
					対差	対比	対差	対比	対比	対差	対比		
全国	ha	ha	kg	t	ha	%	ha	%	%	t	%	%	kg
全国	27,900	23,200	5,480	1,272,000	△500	98	△100	100	94	△87,000	94	98	5,590
鹿児島	10,900	9,570	5,580	534,100	△100	99	50	101	98	△9,600	98	104	5,380
沖縄	17,000	13,700	5,390	737,600	△500	97	△100	99	91	△77,900	90	92	5,840

注：「(参考) 10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量(直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値)に対する当年産の10a当たり収量の比率である。

※農林水産省 HP より (https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka_gaiyou/sakumotu/sakkyou_kome/kougei/r4/kibi/index.html)

農産物産出額(上位10位)

順位	昭55	粗生産額	昭60	粗生産額	平4	粗生産額	平14	産出額	平28	産出額
	農業粗生産額	936	農業粗生産額	1160	農業粗生産額	1049	農業産出額	922	農業産出額	1025
1	さとうきび	271	さとうきび	374	さとうきび	227	さとうきび	169	肉用牛	221
2	豚	172	豚	195	豚	173	肉用牛	144	さとうきび	217
3	鶏卵	56	きく	65	きく	99	豚	130	豚	113
4	肉用牛	43	鶏卵	54	肉用牛	80	きく	93	きく	78
5	リンナップル	31	肉用牛	50	生乳	43	葉たばこ	59	鶏卵	49
6	葉たばこ	25	葉たばこ	34	鶏卵	38	生乳	45	葉たばこ	38
7	生乳	22	生乳	33	さやいんげん	36	鶏卵	36	生乳	38
8	かぼちゃ	22	かぼちゃ	30	葉たばこ	35	マンゴー	18	マンゴー	20
9	さやいんげん	20	さやいんげん	29	リンナップル	19	にがうり	18	にがうり	15
10	きゅうり	18	リンナップル	22	ブロイラー	16	洋ラン(鉢)	16	ブロイラー	15

順位	平29	産出額	平30	産出額	令元	産出額	令2	産出額	令3	産出額
	農業産出額	1005	農業産出額	988	農業産出額	977	農業産出額	910	農業産出額	922
1	肉用牛	228	肉用牛	223	肉用牛	239	肉用牛	198	肉用牛	209
2	さとうきび	168	さとうきび	161	さとうきび	152	さとうきび	187	さとうきび	196
3	豚	131	豚	132	豚	132	豚	115	豚	114
4	きく	74	きく	64	きく	70	きく	57	きく	60
5	鶏卵	45	葉たばこ	43	葉たばこ	39	葉たばこ	38	鶏卵	44
6	葉たばこ	41	鶏卵	41	鶏卵	36	生乳	35	生乳	36
7	生乳	36	生乳	35	生乳	34	鶏卵	32	葉たばこ	35
8	マンゴー	22	マンゴー	25	マンゴー	25	マンゴー	26	マンゴー	23
9	にがうり	18	にがうり	20	にがうり	19	にがうり	16	にがうり	16
10	リンナップル	14	オクラ	14	ブロイラー	14	さやいんげん	14	ブロイラー	14

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

※内閣府 沖縄総合事務局 HP より

(https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/010/532/kennougyou11-20.pdf)

- ・ バガスについて

「バガスは、さとうきびを圧搾した際に発生する繊維質の搾りかすである。沖縄県では、年間19万トンのバガスが発生しており、発生量の89%が製糖工場のボイラー燃料として利用されており、その他は、堆肥や飼料原料として生産者などに提供されている。バガスは食物繊維を豊富に含んでいるが、繊維構造が強固であることや食感が悪いことなどから、食品としての利用はほとんどされていないのが実情である。(独立行政法人農畜産業振興機構 HP より抜粋)」

上記の理由や、バガスには糖分や水分が多く含まれていること、産廃処理に多額の費用がかかること、サトウキビ生産のほとんどは離島で行われることなどから燃料や堆肥などに使われ

る以外は費用をかけて廃棄されていた。SDGs など世界的な環境問題への関心が高まりや活用方法の研究が進んだこともあり、少しずつバガスを活用化が進んでいる。現在は、紙・容器・衣類などパルプやプラスチックの代替材料として、土地改良剤やバイオエタノール、食品としても活用されてきている。

② かりゆしウェアについて

琉球新報の2014年の記事を見ると、かりゆしウェアは県内居住者の6割が所有し、男性は平均4・6着を所有しているが、クールビズのように主に仕事などの公の場や式典などで正装として着ることが多いと推測される。記事では、欲しいデザインがないという声も載せられているが、翻って言えば沖縄県らしいデザインは守られていることの証であるとも言える。また、最近では、長袖やボタンダウンなどの形状の多様化や、さんごや貝といった素材を工夫したものも出ており、沖縄県の人々の工夫が感じられる（琉球新報のHP (<https://ryukyushimpo.jp/news/preentry-234820.html>) を参照）